

<学校において予防すべき感染症の種類と出席停止期間の基準>

	病名	出席停止期間の基準
第二種	インフルエンザ(H5N1を除く)	発症した後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹(三日ばしか)	発疹が消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	全ての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	結核	病状により、学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		
コレラ, 細菌性赤痢, 腸管出血性大腸菌感染症, 腸チフス, パラチフス, 流行性角結膜炎, 急性出血性結膜炎		
第三種	その他の感染症の例	(条件によっては出席停止の措置が考えられる疾患) 学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り学校医の判断を聞き、校長が第三種の感染症として緊急的に措置を取ることができる。
	溶連菌感染症, A型肝炎, B型肝炎, 手足口病, 伝染性紅斑(リンゴ病), ヘルパンギーナ, マイコプラズマ感染症, 感染性胃腸炎など	
第一種	エボラ出血熱, クリミア・コンゴ出血熱, 痘そう, 南米出血熱 ペスト, マールブルク病, ラッサ熱, 急性灰白髄炎, ジフテリア 重症急性呼吸器症候群(SARS), 鳥インフルエンザ(H5N1)	治癒するまで